

製品名: AKAP 220 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06723**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	AKAP11
別名	AKAP11; AKAP220; KIAA0629; A-kinase anchor protein 11; AKAP-11; A-kinase anchor protein 220 kDa; AKAP 220; hAKAP220; Protein kinase A-anchoring protein 11; PRKA11
遺伝子 ID	11215.0
SwissProt ID	Q9UKA4
免疫原	抗血清はヒト AKAP11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1761-1810

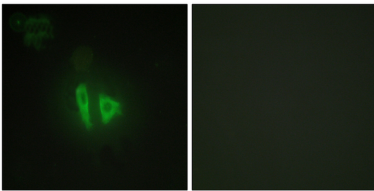
背景

A キナーゼアンカータンパク質 (AKAP) は、構造的に多様なタンパク質群であり、プロテインキナーゼ A (PKA) の調節サブユニッ

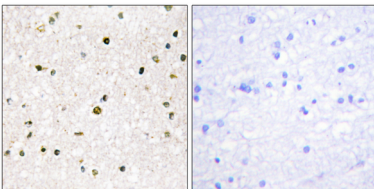
トに結合し、ホロ酵素を細胞内の特定の場所に閉じ込めるという共通の機能を有する。この遺伝子は AKAP ファミリーのメンバーをコードしている。コードされているタンパク質は、精子形成期および成熟精子において高レベルで発現する。精巣において PKA の RI および RII サブユニットに結合し、精子形成および精子機能における推定上の役割に加えて、体細胞および生殖細胞の細胞周期制御にも関与している可能性がある。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月], ドメイン: RII- α 結合部位は両親媒性ヘリックスを形成すると予測され、R サブユニット二量体上の相補的な表面とタンパク質間相互作用に関与する可能性がある。機能: プロテインキナーゼ A の II 型調節サブユニットに結合し、それらを固定 / 標的とする。類似性: AKAP110 ファミリーに属する。細胞内局在: 減数分裂前パキテン期精母細胞および発達中の減数分裂後生殖細胞の中心体では細胞質内に局在する一方、伸長中の精母細胞および成熟精子では中片 / 中心体に局在することが確認されている。組織特異性: 心臓、脳、肺、肝臓、腎臓、精巣、卵巣で発現する。骨格筋、膵臓、脾臓でも弱い発現を示す。

研究分野

画像データ



AKAP11 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



AKAP11 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。